

Bye Bye Plastic Bags Kyoto

活動報告



活動テーマ・活動目的

テーマ；プラスチック問題によって引き起こされる環境破壊に歯止めをかけ、若者から解決へ行動を起こす

目標；プラスチック問題を主とする環境問題によって引き起こされる環境破壊や生物多様性の破壊を食い止め、人類を含めた地球環境が持続可能である社会を実現することを目標とする

活動内容

大阪大学依頼講義



7月

立命館宇治高校授業
大阪大学依頼講義



8月

授業ビデオ作製
立命館中高生向け



10月

活动内容変更届提出



12月

SNSで活動紹介



2月

オンライン企画準備



1月〜現在



活動成果（得たこと）

- ・ 学校・年齢に問わないメンバーとの団結
- ・ 非対面型レクチャーイベントの経験
- ・ コミュニティ内のオンラインコミュニケーションの工夫

活動成果（失敗からの学び）

- ・ コミュニケーションを取ろうとする姿勢の大切さ
- ・ 組織の4Pを意識すること
(理念・目的/仕事・事業/人材・風土/特権・待遇)
- ・ 団体の成長を長期的に見込む難しさと重要さ

今後の活動内容・ビジョン

- 3月末にエコグッズ作成ワークショップを予定
→若者を中心にエコグッズの普及を目的とする
- イベントを重ねて、周囲から信頼を得られる団体に
→企業・行政との連携を目指す

謝辞

本支援金の申請にあたって推薦及び講評、ご指導ご鞭撻くださった立命館SDGs推進本部事務局総合企画課 富田沙樹先生に改めて感謝します

また、当会に講義の機会を与えてくださった立命館宇治高校杉浦真理先生、立命館高校中西美佐先生にも改めまして、この場をお借りし、感謝します

RISP(立命館・インクルーシブ・ ソサエティ・プロジェクト) 報告

テーマ

『新しい障害者スポーツの在り方を創る
～当事者と学生の双方の学びを通じて～』

私たちが大切にしていること

- 双方の学び

ヒアリング調査を通して、学生と当事者団体が共に学びあい
課題発見解決に向かう。

- 当事者性

健常者の想いだけでなく、当事者の意向をくみ取り、反映する。

⇒一方的にならないこと。

障害者にとってのスポーツと「支える」人の役割

- 障害者にとってのスポーツとは
健康維持だけでなく、生きがいやQOLの向上のため
- 「支える人」の役割について
障害者スポーツは「支える人」の役割が大きい。

コロナ禍の障害者スポーツの実態

- 「支える人」すなわちボランティアの不足

⇒障害者スポーツの機会の縮小

- 背景

①ボランティアの受け入れ体制が整っていない

②ボランティア参加側の体制が整っていない

ガイドラインの作成

- なぜガイドラインか

- ① 基盤を整つくる
- ② 外部に向けての発信できるもの
- ③ 形あるもの



- 実際の行い

- ① 他団体や国地域の声明を基に作成
- ② 京都市内の障害者スポーツ団体のHPに掲載

動画配信

- 当事者団体の声「直接会わずに現状を共有できるようにしたい」「PC、スマホについては滅法弱い」

⇒学生だからできること

⇒動画配信による、活動共有



300人以上のメンバーに視聴される。



聴覚障害者を考慮して、字幕を挿入

オンライン講義

- 卒業生、日野未奈子さんを招致
- 障害者スポーツの普及活動、学生生活、コロナ禍での障害者スポーツの活動について学ぶ。
- 動画配信による教材活用



自己紹介

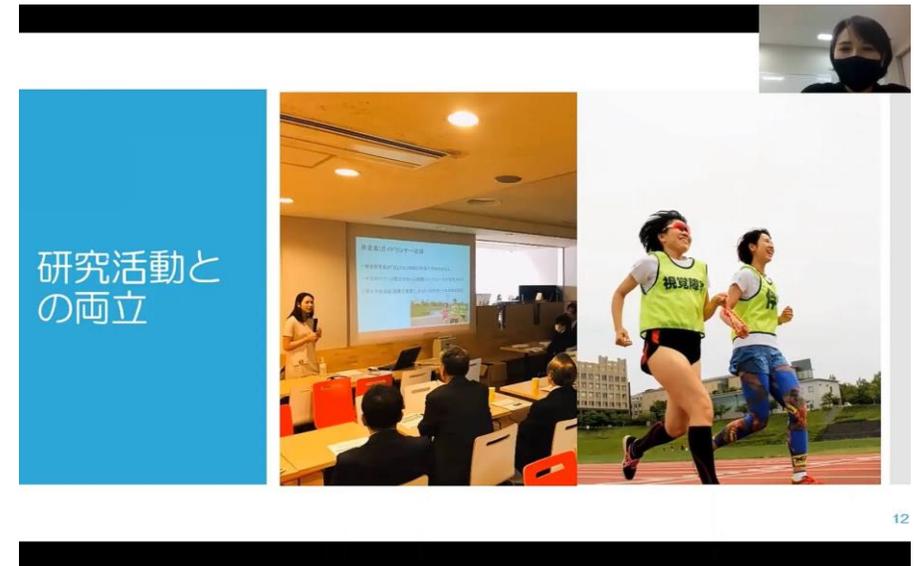
日野 未奈子
立命館大学産業社会学部（2018年卒業）
社会学研究科修士課程（2020年修了）

・愛媛県出身
・2020年4月（株）みずほフィナンシャルグループ入社

【主な競技実績】
・愛媛県全国女子駅伝出場（愛媛県代表）
・全国高校総体3年連続出場
・全国高校駅伝出場
・関西学生新人陸上選手権大会新記録
・関西学生陸上種目別選手権優勝
・愛媛マラソン(2018年)8位入賞
・Rio2016Paralympics5位入賞
・INDONESIA2018アジアパラ競技大会出場

【主な取得資格】
・初級障がい者スポーツ指導員
・日本体育協会公認スポーツリーダー
・JAAF公認ジュニアコーチ
・同行振興従業者(ガイドヘルパー)
・日本パラ陸上競技連盟公認パラ陸上競技指導員

【受賞歴】
・滋賀県体育協会スポーツ特別功労賞
・平成28年度京都市スポーツ特別賞



研究活動との両立

12

今後の見通し

[Vision]

インクルーシブ社会の実現に向けて、活動して いきます。コロナ禍でできることを模索した今年一年の収穫を基に、社会状況にとらわれずに障害者にスポーツの機会を創出し 続けることを目指します。



2020年度 | 活動成果報告書

1	プロフィール PROFILE	p.3
2	活動テーマ THEME	p.4
3	活動目的 PURPOSE	p.5
4	活動の成果 RESULTS	p.6
5	今後の展望 FUTURE	p.7



プロフィール

Entervibe

“多種多様な人々が「感動」を共有することで尊重しあい繋がる”を理念に、映像を使ったエンターテインメントを追求する学生団体。
映像や空間演出、CM、PV、ドキュメンタリー制作などの広い分野でコンテンツの制作、発信を行っている。

活動

全員演者の演奏会（空間演出/インタラ）

<http://www.ritsumei.ac.jp/cias/voice/article.html/?id=703>

立命館大学ブランディングムービー（映像制作）

<https://www.youtube.com/watch?v=heCoB6jtrAM>

私とSDGs（ドキュメンタリー制作）

<https://www.youtube.com/watch?v=PBDzmLH1flk&t=12s>

クリエイティブカレッジ（オンラインセミナー）

<https://ritsumeikanunivpress.com/08/11/4831/>

Creative College

学生が運営する映像クリエイターのための学校

01

第01回
ライティング講座 by 西村尚也
照明とは

▶ すべて再生

ライティング講座

10本の動画・77回視聴・最終更新日: 2020/12/27

公開

説明なし

Entervibe

02

第01回
ロゴ講座 produced by Fami
ロゴとは?

▶ すべて再生

ロゴ講座

7本の動画・0回視聴・最終更新日: 2021/02/11

公開

説明なし

Entervibe

03

ドローン講座作成中...

ドローン協会監修

知識や技術を発見する

Discover knowledge and technology

『Creative College』

クリエイティブカレッジ



作るを学ぶ

学部の中で、実際に映像制作を自分たちが学んでいる。

作ることを感覚的ではなく、論理的に学ぶ大切さを感じ、クリエイティブを学ぶことのできる本講座を制作した。

数値的成果

累計で再生回数 **1000**回 を超える

映像学部生をターゲットにしていたので、多くの視聴回数を獲得することができた。

人的成果

コロナ禍で、何が“**できる**”かを考える力

コロナ禍によって、本来予定していたプロジェクトが進めることが難しい状況になった。しかし、「できない」ではなく「できる」を考える力を身につけることができたことは大きな成果である。

オンラインで自分たちができる最高の面白いを生み出すこと。

ONLINE

OFFLINE

人と人とのコミュニケーションではなく、
人とモノやコトのコミュニケーションを作る。

